

秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

Communication

No. 111

2026.3月号

目次

- P 2～3 園長あいさつ/
ツキノワグマの脱走について/
こんにちは!あかちゃん/移動動物/
訃報/飼育動物数
- P 4～5 【特集①】レッサーパンダの恋の季節
—レッサーパンダ繁殖に向けた取組—
- P 6～7 【特集②】動物園の楽しみ方
～大森山動物園バージョン～
- P 8～9 飼育レポート
- P 10～11 イベントレポート
- P 12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信



あきぎん 大モリンの森

ちよどいいから
住みやすい! 秋田市
LIFE
市民と広げるまちへの誇りと愛着

レッサーパンダの
令花(左)とひなた(右)

園長あいさつ

2026年シーズン開園に向けて

園長 本間 弘生

大森山動物園は3月20日から、2026年の通常開園が始まります。

春の訪れとともに、動物たちの動きも一段と活発になり、来園者の皆さまにとって、命の息づかいをより身近に感じていただける季節となります。

本年度も、多くの方々安心して楽しい時間を過ごしていただける動物園となるよう、職員一同取り組んでまいります。

さて、2025年は当園において飼育中のツキノワグマが脱走するという、あってはならない事案を発生させてしまいました。

市民の皆さま、関係者の皆さまには大きな不安とご心配をおかけしたことを、あらためて深くお詫び申し上げます。

本事案を重く受け止め、当園では、動物展示・飼育施設の管理マニュアルや点検方法の見直し、施設・設備の改善、職員研修の強化など、再発防止に向けた取り組みを進めてまいりました。

安全の確保は、動物園として最も基本的かつ重要な責務です。今後も決して気を緩めることなく、不断の改善を続けてまいります。

また、4月1日から入園料金の改定を行わせていただきます。

物価やエネルギー価格の上昇が続く中、動物たちの健康管理や飼育環境の維持・改善、動物園としての魅力向上、安全対策の充実を図るためには、来園者の皆さまに一定のご負担を

お願いせざるを得ない状況となりました。

なお、こうした中であっても、当園における子どもの学びと体験は、利用する子どもたちだけの「私的な受益」ではなく、社会全体が将来にわたって利益を受ける「公共的な受益」であるとの立場から、子ども料金は引き続き無料といたします。

皆さまにはご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

大森山動物園は、憩いの場・レクリエーションの場であると同時に、命の大切さや自然との関わりを学ぶ公共の施設です。

これからもこうした役割や動物福祉を大切にしながら、安心してご来園いただける動物園づくりに努めてまいります。

新しいシーズンも、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



間近で見るアムールトラに目線がくぎ付けの子どもたち

ツキノワグマの脱走について

参事兼園長補佐 三浦 匡哉

2025年11月21日に当園で飼育中のツキノワグマが脱走した事案について、経緯や原因、再発防止策等を報告いたします。

今後このようなことがないよう、安全管理体制の強化と再発防止に努めてまいります。

1 経緯について

- (1) 11月21日午後1時30分頃、当園内でクマの目撃情報があったことから、その後、速やかに来園者を避難させるとともに、警察等への通報などを行いました。
- (2) 同日の午後3時20分頃、飼育中のツキノワグマ、ルビーが展示場にいことが判明し、この時点でルビーの脱走である可能性が高いと判断しました。
- (3) 同日の午後7時頃、園内で麻酔のうエルビーを捕獲しました。クマ舎に収容後、マイクロチップによりルビーであることを確認しました。
- (4) 本事案の原因と安全管理体制の確認のため、11月22日から25日までの4日間、臨時休園としました。
- (5) マニュアルの見直しなどを行い、安全管理体制を整えたうえで、11月26日から動物園を再開しました。

2 脱走の原因について

- (1) 脱走前日の11月20日、飼育員が日常の作業では使用することのないツキノワグマ展示場の動物搬入作業扉を開錠し、展示場内の清掃作業等を実施しましたが、作業終了後、扉の施錠を失念したものです。
- (2) 脱走当日の11月21日、前日とは別の飼育員が、ツキノワグマの展示開始に向けた準備作業を行いました。

動物搬入作業用扉の施錠の確認をせずに動物を展示場に出したため、その後脱走したものです。

3 再発防止策について

(1) マニュアルの修正や安全管理の徹底

以下のとおりマニュアルを修正するとともに、研修などを通じて職員に安全管理の徹底を指示しました。

- ① 現在、ツキノワグマは1頭での飼育であり、飼育員1人で作業を行っていましたが、他の猛獣と同様、飼育員2人で作業することを明記しました。
- ② 通常作業では使用しない扉に対しても、作業手順を明記しました。
- ③ 飼育舎の出入口の扉および飼育員の作業スペースに、施錠確認等の注意を促すため、指差し確認等の注意事項を掲示しました。
- ④ 園内に外部から野生動物が侵入した場合の来園者の安全確保のほか、速やかに飼育動物を確認することを明記しました。

(2) 施錠確認方法の強化

動物搬入作業用扉の施錠確認を確実にを行うため、クマ舎にアラーム式の開閉警報器を試験的に設置しました。



ツキノワグマ展示場



ツキノワグマ(ルビー)

こんにちは！あかちゃん

2025年8月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

ホンドリス4頭

5月に続き、8月23日と9月3日に2頭ずつ生まれました。残念ながら8月23日に生まれた2頭は亡くなってしまいましたが、5月に生まれた4頭とともに、リス舎がとても賑やかになりました。



仲間入りした動物たち

カピバラ ぎんた♂ ほわいと♀、 ミーアキャット ゆかり♀、エミュー 燦♀

10月27日に伊豆シャボテン動物公園からカピバラのぎんたとほわいと、ミーアキャットのゆかり、エミューの燦がやって来ました。これまで暖かい伊豆で過ごしてきたので、早く寒い秋田に慣れてほしいです(ぎんたは、残念ながら12月28日に亡くなりました)。



カピバラ(ほわいと♀)



エミュー(燦♀)



ミーアキャット(ゆかり♀)



ニホンコウノトリ

11月27日に東京多摩動物公園からニホンコウノトリのペアがやって来ました。大森山ではオスのコウノトリが1羽だけになっていましたが、繁殖に取り組むために、新たなペアを導入しました。今後は他の動物園で生まれた有精卵を秋田に移動し、孵化させることにもチャレンジしてみたいと考えています。



このほか、セキセイインコ、コザクラインコのオスそれぞれ1頭、モルモットのオス1頭メス1頭が仲間入りしました。

大森山動物園を

後にした動物たち

マーコール みつまめ♀、 ところてん♀、クリーム♀

この3頭は2024年5月31日に大森山動物園で生まれました。3頭ともお父さんはサスケですが、ところてんとクリームのお母さんはゆべし、みつまめのお母さんはくるみです。

カピバラ、ミーアキャット、エミューとの交換で、10月28日に伊豆シャボテン動物公園に向けて出発しました。



このほか、モルモットのキウイ(オス)が仙台市八木山動物公園へ引っ越ししました。

忘れないよ… 訃報

ミニブタ トン平♂

トン平は、2006年に同い年のトン吉とともに2か月齢で岩手大学から来園しました。すくすくと成長し、飼育員のトレーニングにより、お座りやお散歩、フリスビー遊びなどができるようになり、人気者になりました。トン吉が2020年に亡くなった後も元気に過ごしていましたが、秋田県内でもブタの伝染病である豚熱が確認されるようになったため、展示が難しくなっていました。亡くなる直前まで食欲は衰えず、量こそ減りましたが、エサを楽しみにしていました。2025年11月14日に19歳で亡くなりました。大往生でした。

(トン平の詳細については9ページの「動物病院から」にも記載しています。)



マーコール サスケ♂ くるみ♀

サスケとくるみは、ともに2014年に生まれました。サスケは当園で生まれ育ち、くるみは川崎市夢見ヶ崎動物公園で生まれ、2018年に来園しました。2頭の間には何頭も子どもが生まれ、賑やかなマーコール一家を築きました。サスケは立派な角で若いオスを圧倒し、リーダーとして君臨していました。一方で、小柄なくるみは、仲間を追われてエサをゆっくり食べることができず、痩せてきたこともあり、サスケやほかの仲間とは分かれて暮らしたり、動物病院に入院したりする時期もありました。サスケは10月6日に、くるみは10月26日に亡くなりました。



この他、スバルバラライチョウ、ワオキツネザル、ニホンザル、ブラッザグエノン、アカカンガルー、プレーリードッグ、コモンマーモセット、チリーフラミンゴ、カピバラなどが亡くなりました。

飼育動物数 (12月末時点)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
46種 306点	25種 123点	12種 25点	3種 8点	1種 41点	1種 23点	88種 526点

レッサーパンダの恋の季節

—レッサーパンダ繁殖に向けた取組—



飼育展示担当(動物専門員) 櫻庭 美千代

大森山動物園では、2026年3月現在、4頭(オス2頭、メス2頭)のレッサーパンダを飼育していますが、当園で生まれた7歳のオスのレッサーパンダ「ひなた」と、他園より来園したメスの「円実(まるみ)」「令花(レイファ)」との間で繁殖に向けた取り組みを進めています。

1 レッサーパンダの恋のサイン

みなさんはレッサーパンダの「恋鳴き」を聞いたことはありますか？レッサーパンダの繁殖期は冬の寒い時期なので、12月～3月頃が恋の季節です。恋の季節が到来すると、「キュー〜キュルキュルキュル…」と、とてもかわいい声で鳴くことがあります。これは、恋をしたい気持ちが高ぶると、オスとメスのどちらにも見られる恋の準備が整ったというサインです。

2 ひなたと円実、3シーズンのペアリング

当園での繁殖例は、2018年にケンシンとゆりの間に、かんとひなたのオス2頭が生まれたのが最後です。

かんは、2022年に鯖江市西山動物園に移動しましたが、当園に残ったひなたも、その頃には4歳と立派な大人になり、繁殖できる時期になっていました。そこで同年、札幌市円山動物園から2歳年上の「円実」をお嫁に迎え入れ、以来、この2頭のペアリングに取り組んできました。



2022年に来園した円実

おっとり優しいマイペースなひなたに対して、少し気が強めで我が道を行くタイプの円実ですが、相性は決して悪くありません。普段はひなたが隣で昼寝をすることさえ嫌がる円実も、繁殖期の冬になると、お互いに温もりが恋しいのか、距離は近くなり、尻を密着させたまま寝ることもあります。メスに興味をなさそうに見えるひなたも、冬は円実の何かを感じ取り、背中や腰の匂いを毎日こっそり嗅ぐようになります。円実が起きている時には「鬼嫁パンチ」(ひなたに対して気が強い円実の性格から、スタッフの間ではそのように呼んでいます)が飛んでくるので、隣で毛づくろいをして油断をさせ、その際に嗅ぐ作戦です。見守る飼育員としては、ひなたにももう少しアタック力を持ってほしいのですが、なかなか進展が見られません。そんな2頭は3回の冬を過ごし、恋鳴きや追尾までは確認できたものの、交尾には至りませんでした。

そこで、2025年4月に鯖江市西山動物園から新しいメスの令花(レイファ 6歳)を迎えました。令花は、温厚でありながら、一人遊びが上手なおてんばな女の子で、オスの前ではどんな反応を見せるのか楽しみでした。令花は新しい環境に順応しやすい性格なので、ひなたとすぐには一緒にせず、繁殖期直前に初めて2頭を同居させることにしました。





ひなたに対して強気な
円実が繰り出す「鬼嫁パンチ」



2025年に来園した令花

3 円実と令花、 メス同士の同居を期間限定で実施

2025年9月、繁殖期までにはまだ時間があつたため、試しに円実と令花のメス同士を期間限定で同居させてみることにしました。他園から来た同性を同居させる試みは当園では初めてで、お互いどのような反応をするのか不安もありましたが、繁殖期の行動との違いなどを確認したかったことと、メス同士の同居で展示効果が高まることを期待して実施を判断しました。

まず、寝室を隣同士にして様子を観察したところ、お互いに匂いをしっかり感じ取りながらも、女同士のライバル心なのか、寝室内でのマーキングが2頭とも激しくなりました。その後、互いが見えるよう、室内で1週間お見合いをさせた後、外展示場での同居を開始しました。



期間限定で実施した令花と円実の「まんまタイム」

当初、「円実のほうが気が強いので、令花が攻撃されてしまうのではないかと心配していましたが、いざ同居が始まると令花のほうが強気で、円実に一撃パンチをお見舞いし、円実が走って逃げるという予想外の展開となりました。興味深いことに、ひなたと一緒にやってきた「まんまタイム」(飼育員がエサを与えながら、解説するイベント)でのリング争奪戦では、ひなたには度々鬼嫁パンチを食らわせてきた円実が、令花には1度も攻撃しなかったのです。その後、2頭は徐々に程よい距離感を掴んだのか、10月下旬まで大きな争いもなく一緒に展示することができました。この同居は、お互いにとって良い刺激になったと思いますが、担当としても新たな発見に繋がる試みでした。

4

新たなカップル ひなたと令花のペアリング

繁殖期が近付いた11月、いよいよひなたと令花の同居です。円実・令花の時と同様に、寝室でのお見合いを経てから外展示場での同居を開始しました。

2頭を一緒にしたところ、ひなたはそれほど気にする様子を見せず、いつもどおりの反応でした。一方の令花は、慣れないオスのひなたが怖いけれど、同時に興味津々でもあるという印象でした。2頭の気を紛らわすために展示場にまき散らした角切りリンゴを食べる途中、距離が近づき、令花がひなたを攻撃することが何度かありましたが、ひなたはほとんど応戦しませんでした。



おっかなびっくり令花(左)の威嚇

このような日々を重ねるうちに令花に成長が見られ、ひなたの5mほど後ろをゆっくり追尾したり、頻繁に凝視したりと、攻撃以外の行動を取るようになりました。さらに、勇気を出してひなたの目の前まで来て、何か言いたげな顔でのぞき込んだりするようにもなりました。

12月下旬からは、同じエサ入れからおやつを食べたり、一緒に並んで竹の葉も食べるなど、より一層距離が縮まってきました。令花がエサ入れを頭でブロックして一人占めしてしまうと、ひなたが抵抗し、「ルール違反!」と注意しているかのように見える場面もありました。昼寝の時には2頭が並んで寝るようにもなりましたが、令花の大事な一人遊びの時間になると、ひなたはやや離れたところから穏やかに見守るような行動も見られました。このように、時間とともに2頭のコミュニケーションは目に見えて増え、繁殖の成功に期待が高まりました。

今冬、ひなたは、円実と令花という2頭のお嫁さんとのペアリングで大忙しです。また、父親ではあるものの、高齢となり、繁殖から縁遠く見えるケンシンも、現在当園にいるレッサーパンダの中では唯一の繁殖した個体であり、恋愛の上では大先輩です。天候が安定している日は外に出て、息子の恋を応援するようにマーキングをして、若者3頭の刺激になってくれています。レッサーパンダ4頭で繋ぐ恋の季節がうまくいくように、今後も温かく見守りながら支えていきたいと思ひます。



ひなたの後を追尾する令花



令花とひなたの距離は縮まり
繁殖への期待が高まります

動物園の楽しみ方

～大森山動物園バージョン～

企画広報担当 主任
工藤 茉莉奈

大森山動物園をもっと楽しんでもらえるよう、おすすめのポイントを紹介します。

時間帯や季節によって楽しみ方はいろいろあります。ぜひ、ご来園の際に参考にしてみてください。

※動物によって個体差があるため、必ずその行動が見られるとは限りませんので、ご了承ください。

9:00

動物園オープン!

ほとんどの動物たちが寢室から展示場へ出てくる時間です。開園直後は、動物たちが展示場内をよく動いている様子が見られます。



展示場の匂いをチェックしながら動き回るユキヒョウ



開園直後は特に活発!

ニホンリス



チンパンジー

展示準備が整うと、チンパンジーが出勤(展示)します。お客さんを見つけて激しいディスプレイを見せてくれるかも。

※ディスプレイ=周囲に自分の強さをアピールする行動。当園では壁やガラス窓、手を叩く様子が見られます。

9:40

トナカイ

エサを与える直前の11時頃になると活発に動き、メス2頭はよく角を突き合っています。トナカイは季節によって、角があったりなかったり、攻撃的だったりおとなしかったり、姿や性格がガラッと変わります。



しなのと雨瑠の力比べ

11:00

レッサーパンダ



朝は主食の竹の葉をモグモグ
開園直後は竹の葉をよく食べています。お昼前後になると、大好きなリンゴをおやつとしてあげているので、イベント時間以外にもおいしそうに食べる姿が見られます。

令花は14時頃になるとテンションがあがって走り回ったりゴロゴロしたりします



ポニー



ポニーは展示場に出てゴロゴロ転がる姿が見られる確率が高い時間帯です。

動物たちの鳴き声

耳を澄ますと聞こえてくる鳴き声にも注目! 動物たちが大きな声で鳴くのは、縄張りの主張や仲間とのコミュニケーションを図るためとされています。



ライオン

体に響く可成り強い音

フクロテナガザル

ファミリーで鳴き声を交わして歌を歌うように鳴いています。



のど元の袋を大きく膨らませて鳴きます

インコ・オウム



特にごはんの時間が近づくと大音量で鳴きます

オオカミ

約10km先まで届くといわれる遠吠え



なかよしタイム

モルモットやウサギとふれあえる「なかよしタイム」がスタート！
 天気の良い日は外の展示場で日光浴もしています。



モルモットとウサギの同居も注目。
 他ではあまり見られません！



メレブとお話しよう！

アカコンゴウインコのメレブは「おはよう」「こんにちは」「またね」など、基本的な挨拶をすることができます。たくさん話しかけてあげると、気分が乗ってたくさんおしゃべりしてくれるかも。

大森山動物園メモ

所要時間

ゆっくりまわって
 約1時間30分
 程度

目的別おすすめ来園時間

- 動物が活発に動いている様子が見たい！
 →開園直後や夕方。
 - まんまタイムなどのイベントに参加したい！
 →お昼前後。
 - エサやり体験がしたい！
 →午前中。数量限定なのでお早めに。
 ※一部午後に開催しているものもあります。
- イベント等の詳細は
 ホームページや園内の掲示板でチェック！

遊びにきてね！



前後

13:30

15:00

閉園時刻が近づき、もうすぐ部屋に戻る時間。夕方のごはんが待ちきれなくて、扉の前でそわそわしている動物もいます。



部屋に戻り
 ストープにあたるカンガルー

16:00

ゾウのトレーニングタイム

動物の健康管理のためにも欠かせないトレーニング。飼育員の声かけに応じて移動したり、足を上げたりする様子が見られます。



そろそろ夜行性の動物たちが起きる時間です。日中は寝ていても、夕方に近づくと活発に動く様子が見られます。



夜行性のビーバーは15時頃に起床

16:30

閉園。ビジターセンターのお土産売り場・休憩コーナーは17時まで利用できます。来園の思い出にお土産をゲット!!



大森山の春夏秋冬

春



桜と動物のコラボを楽しんでみては。写真撮影する際は、レッサーパンダ、カピバラ、ペンギン、フラミンゴ、ラクダの展示場から撮るのがオススメ。

ラクダの展示場からは
 ゆうえんちアニパの観覧車も見えます

夏



動物たちは、換毛によって、夏はスッカリ、冬はモコモコの毛に生え替わります。毛色などの見た目の違いにも着目してみてください。

テンは季節の変化に応じて毛色が変わります
 夏は頭が黒く、体はオレンジっぽい色
 冬は頭が白く、体は明るい黄色



秋



紅葉と動物のコラボのほか、絶滅危惧種のゼニタナゴは、繁殖の季節にしか見られない美しい婚色姿に注目。



冬



寒さに強い動物が活発に動く様子やカピバラの湯っことなどが見られる「雪の動物園」を開催！





飼育

Breeding report

レポート



Breeding report
1

大森山で過ごした50年

フラミンゴ「スグリ」の旅立ち

飼育展示担当(動物専門員)
奥山 麻裕子

1975年に大森山動物園へ来園したフラミンゴのスグリが2025年11月に亡くなりました。

スグリは10年ほど前から視力を失っていましたが、大好きな水浴びや草むしりを楽しみながら、群れの中で徐々に過ぎてきました。2025年には来園50周年という節目の年を迎えましたが、9月に入ると座っている時間が増え、自力で立ち上がることが難しくなりました。

そこで、脚の筋力低下を防ぐことを目的としたリハビリや、事故防止と採餌のために、夜間は室内に収容し、群れと隔離するなどの介助飼育をスタートさせました。毎朝、スグリを抱えて群れのいる室外のプールに連れて行くのですが、仲間と一緒に水浴びをすることで調子が良くなったのか、元気に歩いたり、首を伸ばして羽繕いをしたりするなど、水鳥らしい活発な姿が見られるようになりました。9月はエサを食べられない日が続き、飼育員の支えがなければ立つこともできない状態でしたが、リハビリや介助が功を奏したのか、10月には体調が回復し、エサを完食したり、自力で歩行する姿も見られました。ただ、こうした状態は長くは続かず、再び状態が悪化し、11月3日にその生涯を終えました。

いつときではありましたが、最期に元気な姿を見せてくれたスグリから、動物の生命力の強さを感じました。

これからは天国から大森山の仲間たちを見守っていてほしいです。



最期に強い生命力を見せてくれたスグリ

Breeding report
2

新入りのエミュー「燦」について

飼育展示担当 主査
鈴木 昌典

2025年10月27日、メスのエミュー「燦」(2歳)が伊豆シャボテン動物公園から大森山動物園にやってきました。

エミューは、ダチョウに次いで世界で2番目に大きい飛べない鳥です。飛ぶことが出来ない代わりに足が非常に発達しており、時速50kmの速さで走ることができます。

初めて燦を見たとき、その立派な太い足がとても印象的で、当園にいるオスのミーとケーよりも一回り大きく感じました。見たことのない風景、獣舎、飼育員、さらに隣には見慣れない動物(キョン)がいて不安だったのか、燦は来園後しばらくの間、鳴き続けていました。

実は、この鳴き声こそエミューの特徴のひとつなのです。オスとメスでは鳴き声が違い、オスは「グー」という低い声、メスは「ボンボン」「ポボン」とドラムを叩くような低い声で鳴きます。初めて燦の鳴き声を聞いたとき、本当によく響く低音で驚きました。

来園してすぐの頃は、エサをなかなか食べてくれず、一日中ずっと鳴いていましたが、時間をかけてエサの内容や配置を変えていったところ、次第に食べてくれるようになり、鳴く時間も少しずつ減って、最近ではほぼ鳴くことがありません。

施設に慣れてきた様子なので、今後はペアリングを進めていきたいと考えています。

エミューは、巣作り、抱卵、ヒナの世話はオスの役割で、とてもイクメンなのです。卵はアボカドのような鮮やかな深緑色が

特徴で、実際に見られる日が楽しみです。

すぐにでもペアリングに取り組みたいところですが、より良い子育てができるように施設を修繕し、2026年冬の繁殖期にペアリングを行う予定です。

最近はまだあまり鳴くことがなくなった燦ですが、今も時々「ボンボン」「ポボン」と低い音で鳴く事があります。ご来園の際には、エミューの鳴き声と見事な太い足をぜひ間近で体感してください。





Breeding report

3 アフリカゾウ・花子の給餌の工夫

飼育展示担当(動物専門員)
齊藤 光貴

野生のアフリカゾウの群れは、経験豊富な年長のメスがリーダーとなる母系家族が基本です。オスは、成長すると群れを離れて単独で生活し、繁殖期になるとメスの群れに近づき交尾をします。成熟した若いオス同士が一時的に群れを作ることもあります。

大森山動物園では現在、アフリカゾウの花子(36歳、メス)を飼育しています。以前は、花子の他にだいすけというオスも飼育していましたが、2021年に亡くなり、今は花子を1頭で飼育しています。

野生のゾウは、群れの中でコミュニケーションを取り合いながら生活しています。花子は1頭で生活しているので、飼育員がコミュニケーションの相手です。そこで、飼育員同士で、花子の日頃のストレスを軽減できる方法を話し合い、自動給餌器やフィーダーを作成することにしました。自動給餌器は、タイマーで夜間の決まった時間に自動で餌を与えることができる装置です。また、フィーダーは、動物が工夫しないと簡単にエサを取り出せないような仕組みになっています。このようにエサの採食に費やす時間を延長させることによって、ストレスを感じる機会を減らすことができます。

フィーダー設置当初は、おそろおそろ触れてみたり、エサの採り方が分からず苦戦していましたが、1週間が経過した頃には

得意気にエサを採食するようになりました。この給餌方法で、花子のストレス軽減に一定の効果が見られたため、次は2026年内にタイヤを使用したフィーダーを作成しようと考えています。

今後も、花子が元気で健康に暮らすことができるように様々な工夫をしていきたいと思っています。



フィーダーからエサを取る花子

動物病院から 飼育動物の終末期について

飼育展示担当(獣医師)
佐野 功一

大森山動物園には高齢個体が数多くいます。今年も何頭かの動物たちが病気や老衰で亡くなりました。その中には、私が飼育を担当していたミニブタのトン平も入っています。ミニブタの寿命は10~15歳とされていますが、トン平は19歳まで長生きし、2025年11月に老衰で穏やかに最期を迎えました。

そんなトン平の寿命が近づく過程で、考えたり、感じたことがあります。

思い返すと、亡くなる半年前の5月に体調を崩したことをきっかけに健康状態に波が始め、少しずつ体力が落ちていきました。スタッフの間では、ミニブタは暑さに弱いため、夏には冷房のあるところに避暑させてはどうかという意見もありました。しかし、トン平の人好きな性格を考えれば、人の気配が多い今の環境を変えない方が良く判断し、避暑の代わりに、水浴びの回数を増やすなどして暑さを和らげる工夫をしました。

夏が過ぎる頃には、食事をするにも疲れて採食を途中でやめてしまうことが増えました。徐々に食事量が減り、足腰の踏ん張りも効かなくなってきて、転倒する

ことが増えていきました。残された時間はそれほど長くないと考え、延命的な治療は行わないことにしました。最期の1週間のごく僅かの食事を採り、そして静かに息を引き取りました。

これからも、動物たちができるだけ生活の質を維持しながら最期を迎えられるよう、動物の状態に合わせたケアを考えていきたいと考えています。



19歳で大往生したトン平

大森山アートプロジェクト 2025

企画広報担当 主席主査 金 大咲

大森山動物園と秋田公立美術大学が連携し、アートによるにぎわい創出を目指す「大森山アートプロジェクト」。今回は、株式会社川本第一製作所様から企業版ふるさと納税によるご支援をいただき、次の2作品を制作しました。

1 壁画「思い出に残るシンリンオオカミたち」

壁画パネルは、飼育員からの「これまで大森山で飼育してきた個性豊かなシンリンオオカミたちを描いてほしい。」という希望を受けて、秋田公立美術大学附属高等学院の生徒6名が共作しました。長年にわたり当園の人気動物であったシンリンオオカミの系譜を、懐かしく振り返ることができるスポットとなりました。



オオカミ展示場近くに設置された壁画パネル



ミッドナイト(オス)とサラ(メス)



ハチ(メス)とキララ(メス)



シン(オス)とジュディ(メス)

2 ミルヴェ館案内看板制作

屋内イベントの開催や、休憩スペースとしてもご利用いただいているミルヴェ館(管理事務所・研修ホール)については、以前から「場所が分かりにくい」という声が寄せられおり、この度、新たな目印を制作しました。大きなオモリンのイラストと立体的に浮き出た「ミルヴェ館」の文字で、遠く離れた場所からでも見つけやすくなりました。



オモリンを中心に動物たちがデザインされた案内板



入園ゲートからも見えるようになりました

イベント

レポート

Event report

秋の動物 ふれあいフェスティバル

(10月5日)

恒例の「どうぶつパレード」では、ポニーやペンギン、ワシミズクなど11種の動物が来園者の目の前を行進し、その様子に皆さん夢中の様子でした。「アニマル応援隊 ☆食欲の秋」では、ゾウやワオキツネザルなどの食事の工夫についての体験学習を行いました。



ハロウィンの装いでお客さまの近くをパレード



ゾウが好む枝葉を実際に刈り取って花子にプレゼント



どうぶつサイエンスⅡ ～身近な自然から学ぼう～

(10月18日)

この教育プログラムは、自然科学学習館との共催で開催しています。午前には、グリーン広場でイモムシの好物の木の葉を観察し、生き物と木の関わりを学んだ後、虫や植物を観察して自然マップを作成しました。午後は、生き物の痕跡を手がかりに推理クイズを行いました。



大森山公園を散策しながらの自然観察



みんなのスケッチをもとに自然マップが完成!



ご支援ありがとうございました

秋田市大森山動物園応援会様からは、毎年、物心両面からの応援とご支援をいただいております。同会の2025年の活動をご紹介します。

- 5月30日 ビジターセンター動物園エリアに新しいデザインの募金箱を設置しました。
- 8月6日 「竿燈まつり市民パレード」に参加し、大森山動物園をPRしました。
- 10月24日 第4駐車場付近の丁字路に設置された「オモリン看板」の補修をご支援いただきました。



新しいデザインは人気のレッサーパンダ(ビジターセンター動物園エリア)



美大生も加わった竿燈まつり市民パレード



動物園の案内役「オモリン看板」がピカピカにリニューアル!

さよなら感謝祭

(11月30日)

昨シーズンの閉園イベントとして、皆さまへの感謝を込めて開催。セレモニーには沼谷市長をはじめ多くの方々にも出席いただき、今年亡くなった動物の慰霊を行いました。また、特別イベントとして、無料のエサやり体験や動物との記念撮影などを行いました。



感謝祭セレモニーでの献花



動物たちとの記念撮影

雪の動物園

(1月4日~2月28日の土日祝日)

20回目の開催を記念して、雪の動物園歴代ポスター展示を実施しました。また、開催日には、カピバラの湯っこやトナカイ・ポニーのおさんぽタイムなどの特別イベントを中心に、冬の動物たちの様子をご覧いただきました。また、大森山ゆうえんちアニパでは、暖房付き観覧車の運転を1月と2月の3連休限定で行いました。



大人気のおさんぽタイム



20目を記念した歴代ポスターの展示



今後のイベント (予定)

●3月20日(金)~11月30日(月)

「2026年通常開園」※期間中無休

飼育日誌

Breeding diary

7/2	チリーフラミンゴ	6/25に日立市かみね動物園から搬入した新個体2羽を群れに同居する。
7/3	プレーリードッグ	仔3頭ともメスだった。
7/5	ミーアキャット	ライラ♀ 麻酔下処置(舌が鶏頭の気管により絞狭)本日入院、明日退院予定。
7/6	カピバラ プレーリードッグ アムールトラ	コムギ♂ 溺れかけてパニックになる。 親仔屋外展示場に出す。 シュウ♂ ワクチン接種。
7/7	アフリカゾウ	室内2階から古タイヤフィーダーで給餌。
7/8	トナカイ	ルドルフ♂ 体重測定・放牧。
7/9	プレーリードッグ	前日行方不明の仔1頭姿確認。
7/11	ジャンボウサギ ミーアキャット カリフォルニアアシカ ユキヒョウ	ジョージ♂ ギブス交換処置。 福井群に蜂の巣給餌。 竿燈馴致。 スポットクーラー設置。
7/19	モモンマーモセット	モコ♀ 病院から新世界サル舎へ移動。
7/21	キリン	♂♀夏バテ気味。採食スピード遅い。
7/22	ニホンイヌワシ	月子♀ 採食無し(3日目)。
7/23	スバルバルライチョウ	避暑のため3羽隔離棟へ移動。
7/25	ヨーロッパフラミンゴ	糞プールに入る。
8/1	トナカイ	春來♂ 熱中症の状態となったため、直接散水計4回実施(合計1時間程度)。 なかよしタイム熱中症警戒アラートのため中止。
8/12	フラミンゴ	オキアミ給餌終了。
8/16	キリン	リンリン♀・ケイタ♂ 監視下で同居実施。
8/20	アメリカビーバー	レントゲンによる妊娠判定(妊娠している可能性大)。
8/21	ミーアキャット	同居訓練。
8/22	モモンマーモセット	交尾確認。
8/24	カラスヘビ	ピンクマウス1匹強制給餌。多量の排膿あり。
8/26	アメリカビーバー	チャチャ♀ 朝、胎動のようなもの確認。
8/27	ミーアキャット	♀群終日同居。
9/2	ワコブラクダ ミニブタ	福♂ 発情のような行動が見られた。 トン平♂ 口腔内腫瘍一部結紮(けっさつ)。
9/4	トナカイ	ルドルフ♂ 攻撃性あがったため、本日から間接飼育開始。
9/6		インコ舎へ観葉植物/パキラ(Amazon欲しいものリスト寄贈品)設置。
9/10	ヨーロッパフラミンゴ	わかば 自力採食確認。
9/12	キョン	ノゾム♂ 袋角の皮膚が剥ける。
9/17	アフリカゾウ	自動給餌器設置し稼働。
9/24	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ 6日ぶりに食欲あり。
9/26	トナカイ	しなの♀ 角の皮膚がほとんど剥がれていた。
9/28	チンパンジー	ボンタ♂ 寝室シュートフェンス破損。午後より簡易補修。
9/29	ワオキツネザル	B群♂1頭の陰嚢に裂傷確認したため、右睾丸摘出。夕方群れに戻す。抗生剤内服開始(1週間)。
9/30		サル山一斉捕獲。
10/1		サル山全頭の個体識別。
10/3	オカメインコ アフリカゾウ	2羽おかげハウス室内へ放鳥。 自動給餌器稼働。完食した様子。

10/7	フクロウ	たけこ♀ 病室5(避暑)から旧病院へ移動。 資料館ゼニタナゴの二枚貝7個への産卵を確認。 60cm水槽での貝のみの管理をスタート。 高病原性鳥インフルエンザ講習会。
10/10	カナダヤマアラシ	展示場へ移動。
10/13	ユキヒョウ	リヒト♂ トレーニング(筋注想定)。
10/15	コツメカワウソ	3頭一時的に同居となった。
10/19		インコ舎サッシ設置。
10/20	トナカイ	ルドルフ♂ ♀への執着強くフェンスに角を擦るため下段のみで管理する。
10/23		高病原性鳥インフルエンザ警戒期間開始。
10/24	ユキヒョウ	アサヒ♀ 展示中に柵越し横付けでワクチン接種成功。
10/25	マーコール	フルミ♀ 起立不能、隔離棟で治療。
10/31	チリーフラミンゴ キリン	スグリ♂ ふらついて転倒することが多い。 交尾直前で離すことに成功。交尾に至らず。
11/2	ノドジロオマキザル	サンドバッグ設置。
11/3	カピバラ トナカイ	新規個体展示訓練(寝室↔ガラス展示場)。 春來♂ 両角落角、跛行やや重め。
11/4	カリフォルニアアシカ	マヤ♂ 左口角の口唇炎悪化、抗生剤内服開始。
11/5	ホンドリス	個体識別。
11/9	アメリカビーバー	チャト♀ 麻酔下での下顎切歯の歯切り処置、体重測定。
11/11	レッサーパンダ	ひなた♂・令花♀ペアリング。
11/12	ニホンコウノトリ	前日採食なし。アユ給餌するとすぐにつついてきた。
11/13		インコ舎東西窓の冬囲い。
11/16	カナダヤマアラシ	舎サッシ取付け。
11/20		老人と子供の家で2日続けてクマガが出没し、駆除された。子グマだった。
11/21	ツキノワグマ	ルビー♀ 脱走、麻酔投与し捕獲完了。
11/22	トナカイ	臨時休園。 ルドルフ♂ 両角落角、しなの♀ 頭絡装着。
11/26		再開園。
11/29	アフリカゾウ	ドラム缶フィーダー午前中設置。
12/1	カピバラ アフリカゾウ	群れ飼育のマカロニ♂、ドリリア♂間で闘争による外傷あり。経過観察。 トレーニング時、耳付近にホース近づける。腸管輸液練習本日から開始。 小動物舎、は虫類出入り扉取付け。
12/2		フラミンゴ舎天井ネット撤去作業。
12/3	フラミンゴ	室内給餌スタート。 キジ舎冬囲い。
12/5	トナカイ	また順位が変わったようで、しなの♀が兩端にマウントしていた。
12/10	トナカイ	ルドルフ♂と春來♂の飼育場所交換。
12/12		チンパンジー舎:モート凍結防止のためのポンプの電源取付け。
12/18	タテガミヤマアラシ	♀入れ替え。 クマ冬眠用の箱組立て。
12/20	カピバラ	4頭群れ(落花♀以外)×ぎんた♂闘争による傷あり。
12/21	スバルバルライチョウ ニホンアナグマ	コッシー♀ 体重測定実施、900g。 冬ごもりに向け、今日から給餌量減少。
12/22		イヌワシ巢(1層目40cm枝)設置。
12/23		動物脱出演習。
12/27	アムールトラ ツキノワグマ	シュウ♂ 整腸剤・消化管機能改善薬内服、同居時、左前肢を軽度負傷。 カサンドラ♀ 発情弱くなりつつある。 ルビー♀ 冬ごもり開始。

お客様の声

- 8/3 道脇の花が色鮮やかで和みました。カンガルーの気性が優しく、エサを食べる姿が可愛かった。
- 8/13 トナカイの放牧で池の中をおよいでいてびっくり、初めて見ました。良い物見れました。
毎回子供と一緒に来ていますが、動物に会えるのを心待ちにしているのは母である私の方だったりします。毎回楽しい時間を過ごしています。
- 8/15 イベントに参加して、コアなファンの方々が多くなることを知った。こうしたコミュニティがあることを嬉しく思った。応援しています！
- 9/17 地元秋田を離れ生活をしていますが、久々に来られて嬉しかったです。よりこの園が賑わい、笑顔を届けられるように願っています。
- 10/7 レッサーパンダのケンシンが見違うほどきれいに回復していて驚きました。どの動物たちも大切にされているのだと改めて思いました。
- 10/17 年に2回の帰省のタイミングで必ず来園しています。落ち着いてリラックスできる空間で動物たちと触れ合えて、本当に満足しています。



かたがた通信

昨年の5月に異動して来た、動物園の施設担当1年生です。施設や設備の管理・修繕が主な仕事です。そうした仕事のひとつに「ハチの駆除」があります。ハチは、園路沿いの植栽や獣舎の中など、様々なところに巣を作ります。ある日、いつものようにハチを駆除した後、少し離れた東屋から「ハチがいなくなってゆっくり休めるね」と話す親子の声が聞こえてきました。なかなか気付いてもらうことの少ない裏方の仕事ですが、気付いてもらえたり、感謝してもらえると嬉しいものだなと改めて感じました。(横田)

発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL:018-828-5508 FAX:018-828-5509
E-mail:ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/株式会社アートシステム

◎動物取扱業者/秋田市長 沼谷 純 ◎事業所及び所在地/秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地
◎登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-19-52 貸出し:動-19-53 展示:動-19-54
◎登録の年月日/2007年6月1日 ◎有効期限の末日/2027年7月31日 ◎動物取扱責任者/高橋 広志、山上 昇

大森山動物園

検索

www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html

